

高知県長期漁海況予報

平成22年下半期(8～12月)の漁況・海況の予想

平成22年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成22年8月から12月を予測期間とした「平成22年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

予報の概要

海況

黒潮：黒潮は、都井岬沖では8月に小蛇行が形成され離岸傾向となる。10月には接岸傾向となるが、11月に再び離岸傾向となる。足摺岬沖～潮岬沖では、接岸傾向であるが、都井岬沖の小蛇行が9～10月に四国沖を東進するのに伴い離岸し、その後は接岸傾向となる。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

漁況

マイワシ： 前年並みの散発的な来遊

ウルメイワシ： 前年並みから下回る

マアジ： 前年並みから下回る

サバ類： 前年を上回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海況

【海況の経過（平成22年4月～7月）】

1 黒潮

足摺沖では、4月上旬から6月上旬まで「接岸」傾向が継続していましたが、6月中旬に一時的に「やや離岸」した後は、「接岸」傾向となっています。

室戸岬では、足摺岬と同様に、4月上旬から6月上旬まで「接岸」傾向が継続していましたが、6月上旬から急速に離岸傾向に転じました。その後は、7月下旬頃から「接岸」傾向となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

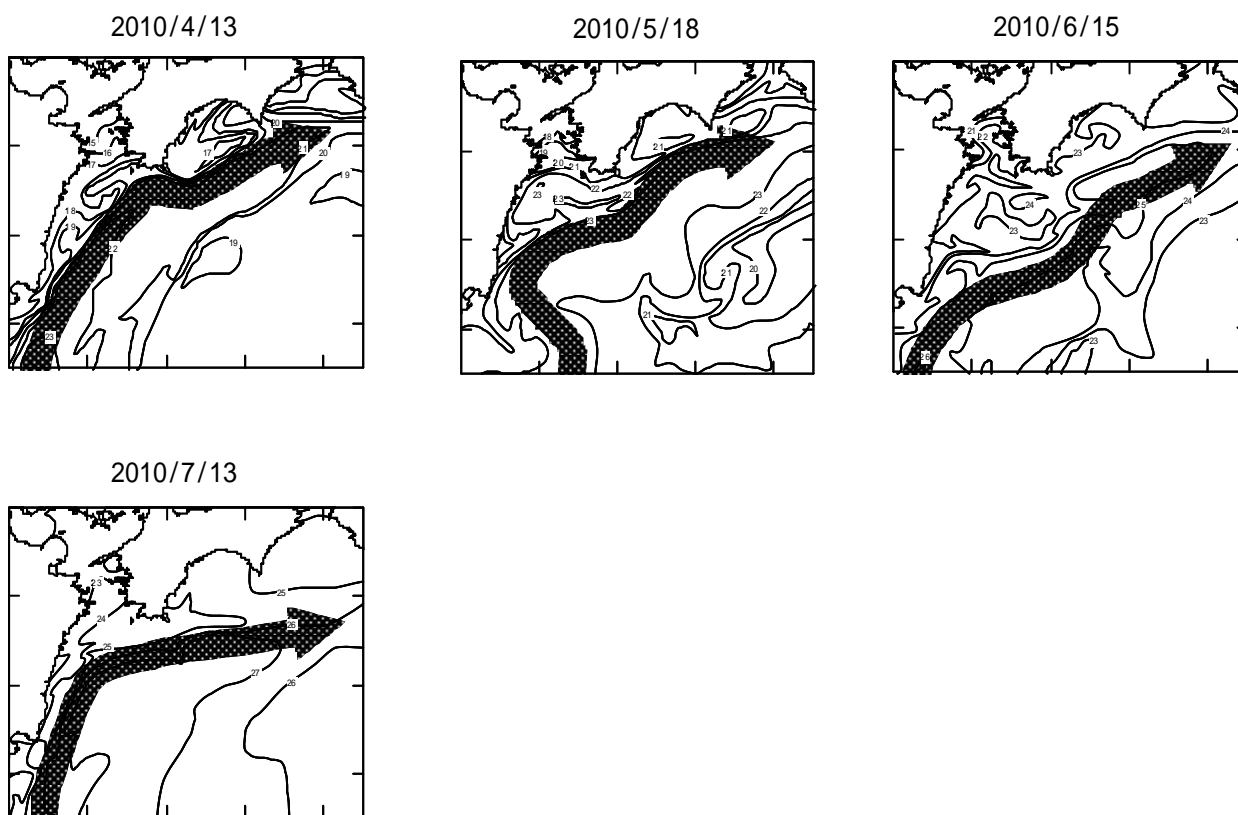


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

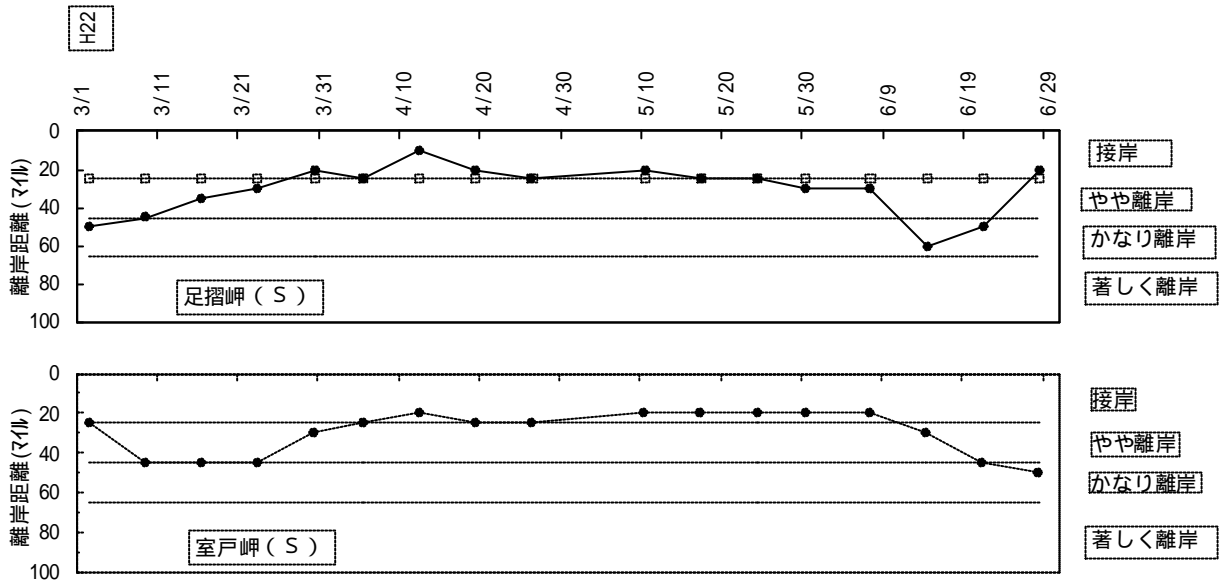


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

2 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温は、表層で「平年並み」から「かなり高め」、中層で「平年並み」から「やや高め」、下層で「やや低め」から「やや高め」でした。4月は、0m層において「やや高め」、50m及び100m層において「平年並み」、200m層において「やや低め」でした。5月は全層で「平年並み」でした。6月は0m層で「平年並み」、50m及び100m層において「やや高め」、200m層において「かなり高め」でした。

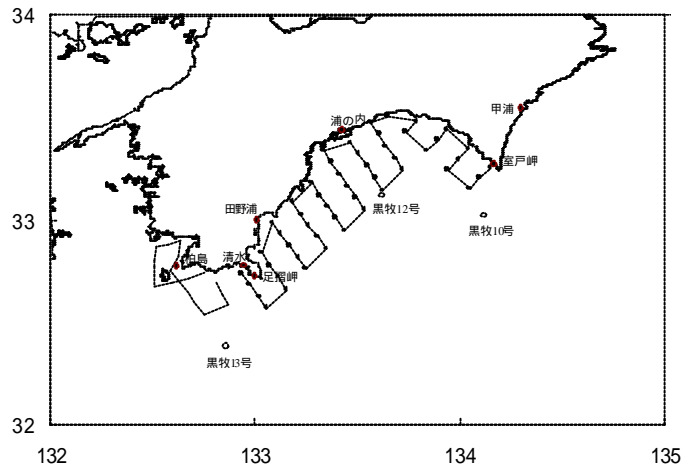


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成22年3月	++	++	+	--
平成22年4月	+	+-	-+	-
平成22年5月	-+	+-	+-	-+
平成22年6月	-+	+	+	++

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並(+基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並(-基調)	0.0~-0.6

3 特異現象

海況

- ・定地観測において、伊佐の6月の表面水温が過去最低の水温を記録した(1966年以降)。

漁況

- ・県東部の大型定置網におけるブリ(7kg級)が前年に引き続き、好漁であった(平年比582%)。
- ・カタクチイワシが好漁。宿毛湾の中型まき網(平年比259%)、県東部の大型定置網(平年比866%)。
- ・マアジが不漁。宿毛湾の中型まき網(平年比28%)、県東部の大型定置網(平年比12%)。
- ・機船船びき網によるシラス漁が好漁(平年比147%)。
- ・土佐清水の立縄漁でマサバ好漁(平年比737%)。

【今後の見通し(平成22年8~12月)】

1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通してN型流路で推移し、小蛇行の東進に伴い、8月、10~11月にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖では8月に小蛇行が形成され離岸傾向となる見込みです。足摺岬沖~潮岬沖では、接岸傾向となりますが、都井岬沖の小蛇行が9~10月に四国沖を東進するのに伴い離岸し、その後は接岸傾向となる見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

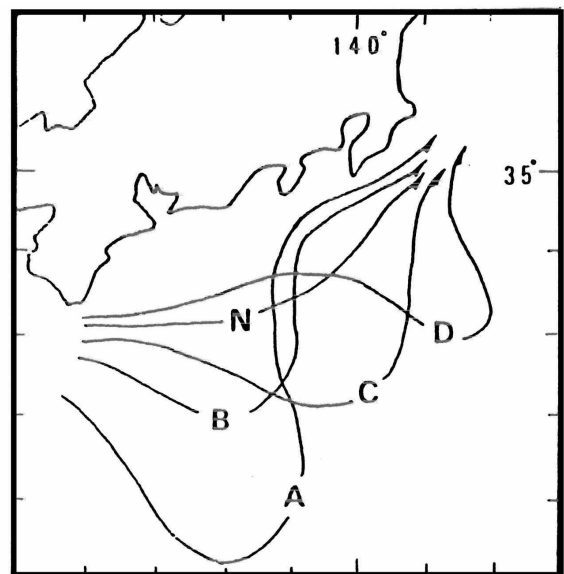


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2 沿岸の水温

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方气象台発表の「四国地方3か月予報」(6月24日発表、予報期間7~9月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

1 サバ類(ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過(平成22年4~6月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,862.7トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比993%、平年比130%(以下、平年とは平成11年から平成20年の10年間の平均値を示します)でした。漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長25~28cmのゴマサバでした。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は45.1トンで、前年比66%、平年比44%でした。漁獲物の測定並びに県東部の定置網入網調査等の結果によると、漁獲の主体はゴマサバでした。

(3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計)による漁獲量は221.1トンで、前年比52%、平年比66%でした。魚体測定の結果、漁獲のほとんどはゴマサバで、前年同様3才魚(平成19年生まれ)以上が主体でした。

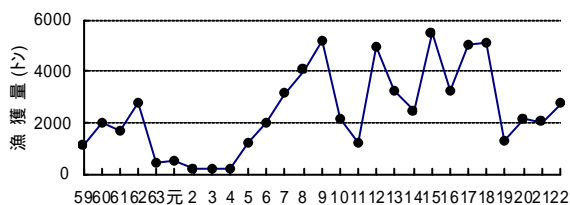


図 サバ類漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

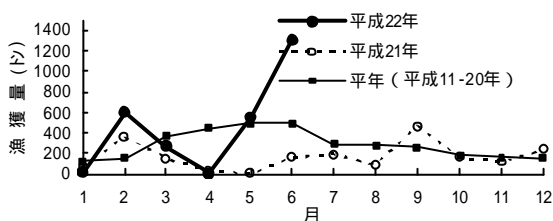


図 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

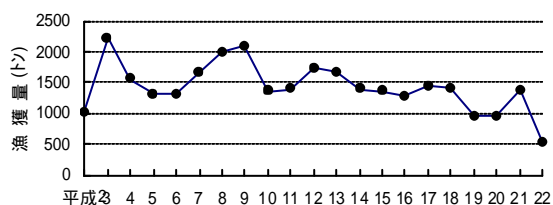


図 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

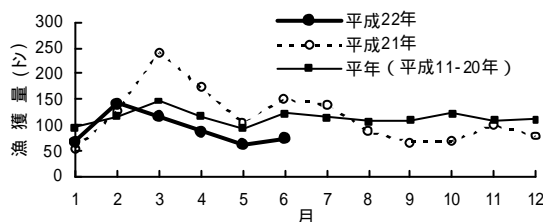


図 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

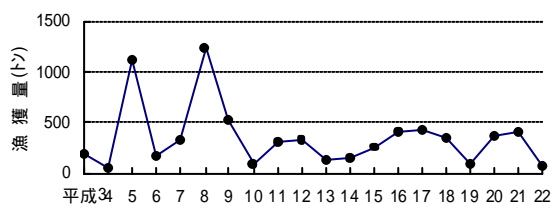


図 サバ類漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

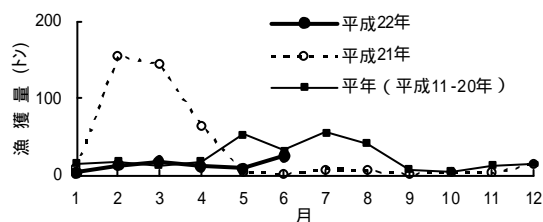


図 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に7,777トンで、前年比212%、
平年比143%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は1,048
トンで前年比453%、平年比85%でした。

和歌山県：紀伊水道外域の2そうまき網による2～6月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,148トン
で、前年比91%、平年比76%でした。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

(1) 漁獲対象：1才魚(平成21年生まれ)、2才魚(平成20年生まれ)、3才魚(平成19年生まれ)

(2) 来遊水準：

- ・ゴマサバ：1才魚は前年を上回るが、2才魚以上は小規模な来遊は見込まれますが、前年並みか下回ります。全体の来遊量としては上回ると考えられます。
- ・マサバ：全体として低水準ですが、来遊量は前年並みか上回る見込みです。

(参考)前年(平成21年8～12月のサバ類漁獲量)

宿毛湾の中型まき網 1,073 トン

定置網(窪津・椎名合計) 28 トン

釣(立縄・多鉤釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計) 400 トン

説明：

ゴマサバ：ゴマサバ太平洋系群の資源量は、0才魚(平成22年生まれ)と1才魚(平成21年
生まれ)が多いと推定されています。高知県の釣や定置網の漁獲量は前年を下回りながらで
推移していますが、県西部では1才魚の大きな来遊が認められていることから、前年を上回
ると考えられます。

マサバ：マサバ太平洋系群の包括的な資源量調査の結果、平成22年のマサバ資源は1才魚(平
成21年生まれ)、3才魚(平成19年生まれ)が主体で前年を上回ると推定されています。こ
こでの漁況予測は、このことを中心に、高知県の漁況情報を加味して、作成しました。

II マアジ

【漁況経過（平成22年4～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は27.6トンで、前年比16%、平年比9%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が27.4トンで、前年比23%、平年比20%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は0.1トンで、前年比0.3%、平年比0.1%でした。漁獲物の体長測定結果等によると、1才魚以上を主体に漁獲していたと思われます。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は34.1トンで、前年比12%、平年比15%でした。

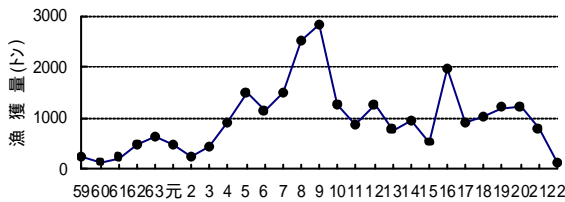


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

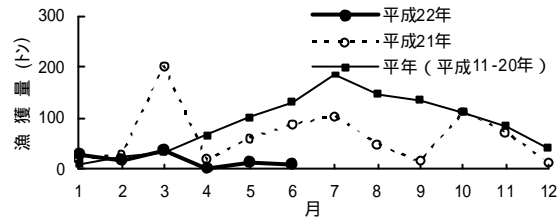


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

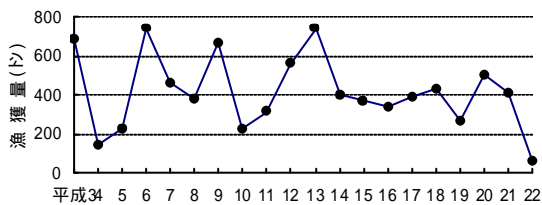


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

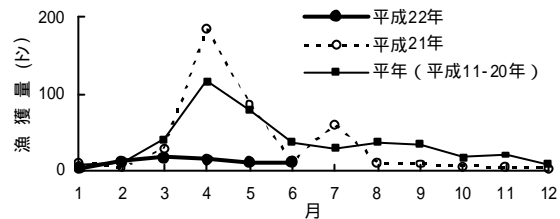


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は211トンで、前年比40%、平年比24%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は366トンで、前年比58%、平年比25%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による1～6月の漁獲量は282.4トンで、前年比31%、平年比19%でした。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0才魚（平成22年生まれ）と1才魚（平成21年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年を下回ると考えられます。

(参考)前年(平成21年)8~12月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 261 トン

定置網(窪津・椎名合計) 29 トン

説明：

マアジ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と評価されています。予測期間中は0才魚(平成22年生まれ)が主な漁獲対象となります。この0才魚は、高知県海域をはじめ、西日本の各地でおおむね低い来遊水準にあると考えられることから、本年下半期の来遊水準は前年並みから下回ると推定されます。

III マイワシ

【漁況経過(平成22年4~6月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は0トンで、前年(252.9トン)、平年(76.3トン)を下回りました。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は82.0トンで、前年比4,094%、平年比168%でした。

漁獲物の体長測定結果によると、主体は1才魚(平成21年生まれ)以上の大型魚でした。

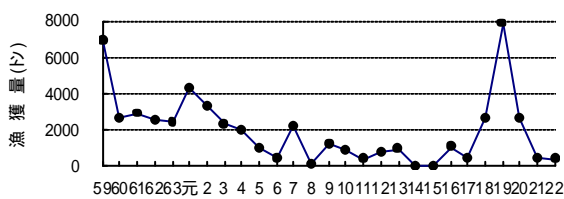


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

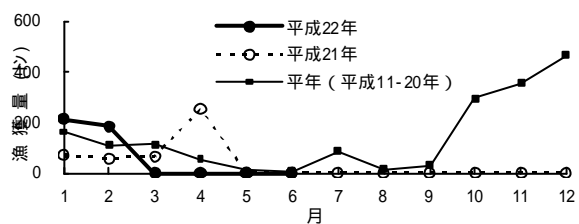


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網：宿毛湾)

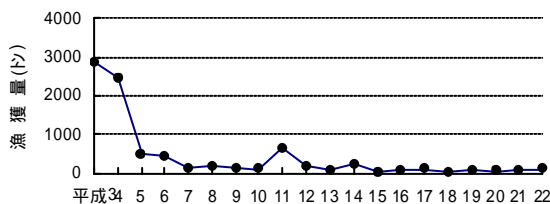


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

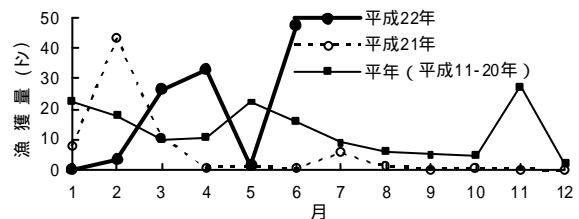


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名：大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 7 トンで、前年比 3%、平年比 1%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の漁がみられ、4～6 月における総漁獲量は 0.03 トンで前年比 0.1%、平年比 0.0%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の 1 そうまき網による 4～6 月の総漁獲量は 19.2 トンで、前年比 43%、平年比 14%でした。

【漁況予測（平成 22 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：0 才魚（平成 22 年生まれ）、1 才魚（平成 21 年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並みの散発的な来遊と考えられます。

(参考)前年(平成 21 年)8～12 月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網 0 トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計) 2 トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県における下半期の主な漁獲対象となる 0 才魚（平成 22 年生まれ）は、高知県海域を含む各地で前年並みの低い来遊水準にあると考えられています。また、本年の上半期に定置網などで散発的に漁獲された 1 才（平成 21 年生まれ）以上の魚は少なく、来遊するとしても散発的と考えられます。以上のことから、予測期間中の来遊は前年並みの水準で散発的と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成 22 年 4～6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1,357.0 トンで、前年比 168%、平年比 379%でした。銘柄別では幼魚「ドコ」が 149.3 トンで、前年比 84%、平年比 126%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は 1,207.7 トンで、前年比 192%、平年比 503%でした。漁獲物の測定結果によると、体長 12～13cm 台の 1 才魚を主体に漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網(窪津・椎名 2 水揚地合計)による漁獲は 251.1 トンで、前年比 434%、平年比 564%でした。

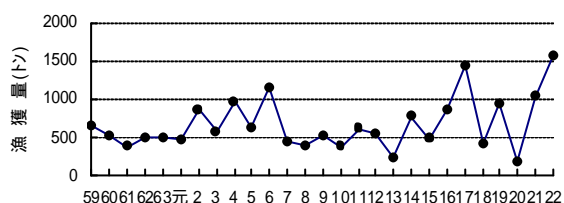


図 加刺イサシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

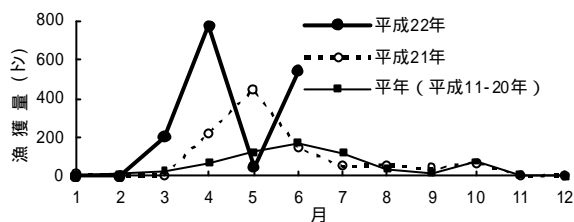


図 加刺イサシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

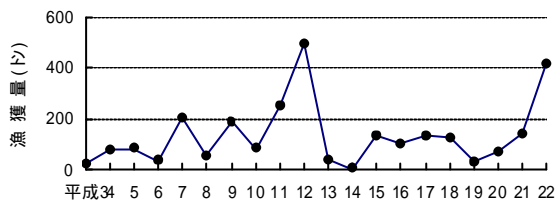


図 加刺イサシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

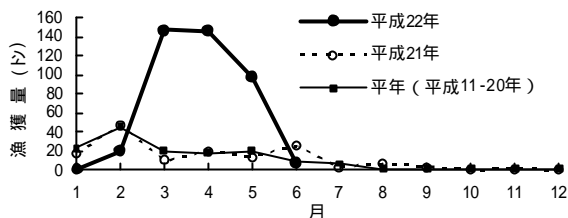


図 加刺イサシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は4,407トンで、前年比408%、平年比251%でした。

愛媛県：豊後水道では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6月の総漁獲量は3,821トンで前年比154%、平年比417%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

高知県海域では、下半期に主たる漁獲対象にならないと考えられます。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成22年4～6月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は360.1トンで、前年比27%、平年比59%でした。体長測定から1才魚(平成21年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は10.3トンで、前年比89%、平年比34%でした。定置網入網調査と体長測定から、1才魚(平成21年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は19.7トンで、前年比864%、平年比145%でした。

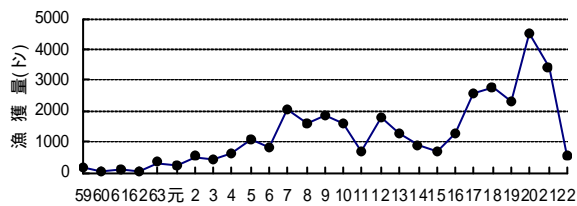


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

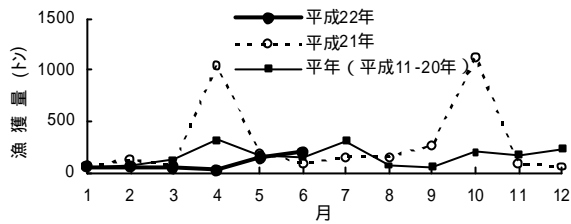


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

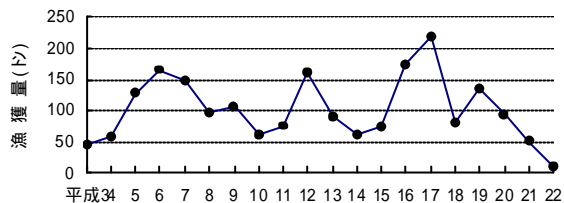


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宍津・椎名：大型定置網）

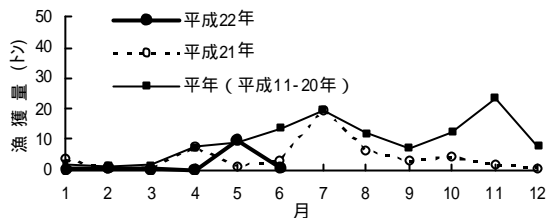


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宍津・椎名：大型定置網）

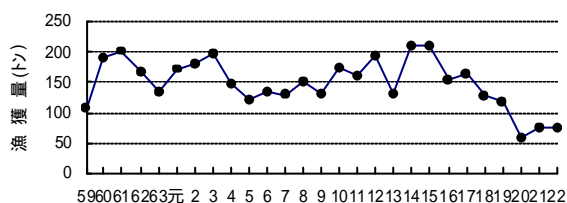


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

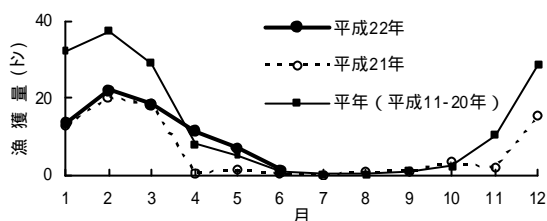


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は1,063トンで、前年比38%、平年比45%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による4～6月の総漁獲量は471トンで、前年比60%、平年比90%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、4～6月の総漁獲量が112.7トンで、前年比60%、平年比85%でした。

【漁況予測（平成22年8～12月）】

- (1) 漁獲対象：0才魚（平成22年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：前年並から下回ると考えられます。

(参考)前年(平成21年)8～12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網:1,686 トン

定置網(宍津・椎名合計):15 トン

多鈎釣漁(宇佐漁協): 22 トン

説明:

ウルメイワシ資源は高水準で推移してきましたが、2010年には資源水準は中位、動向は減少傾向と評価されました。本県においては、冬季にウルメイワシのシラスが多く漁獲されましたが、その後の0才魚(平成22年生まれ)の来遊状況は高知県、近隣県ともにおおむね悪い傾向があります。以上のことから、来遊水準は前年並みから下回ると考えられます。

VI シラス

【漁況経過(平成22年4~6月)】

1 高知県

機船船曳網(安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦7水揚地合計)による漁獲量は220.2トンで、前年比122%、平年比122%でした。魚種組成は、4月はカタクチイワシが主体にマイワシとウルメイワシが混じりました。

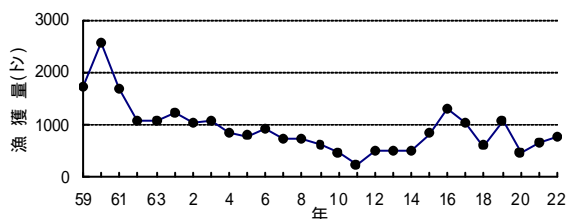


図 シラス漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

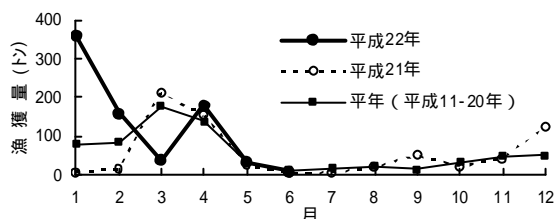


図 シラス月別漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

2 周辺各県の経過

宮崎県: 1~6月の総漁獲量は635トンで、前年比78%、平年比49%でした。

大分県: 佐伯湾における4~6月の漁獲量は8.8トンで、前年比67%、平年比11%でした。

徳島県: 紀伊水道内における4~6月の漁獲量は488トンで、前年比76%でした。